

メールアドレスの形式に関する注意点 (RFC 5322 / RFC 5321 準拠)

1. 記号の使用について

- 使用可能な記号 (RFC 準拠)
 - !#\$%&'*+,-./=?^_{|}~ などは、引用符なしで使用可能。
 - アンダースコア _ やハイフン - の連続使用も OK。
 - スラッシュ / も RFC 上は許可されているが、実運用では拒否されることもある。
- 使用例 (RFC 準拠)
 - -user@example.com (記号が先頭でも OK)
 - _user@example.com (アンダースコア先頭 OK)
 - user--name@example.com (記号連続 OK)
 - user/name@example.com (スラッシュ使用 OK)
 - user.name@example.com (ドットは区切りとして使用可能)
- 使用例 (RFC 違反)
 - .user@example.com (ドットが先頭)
 - user.@example.com (ドットが末尾)
 - user..name@example.com (ドットが連続)
 - user. name@example.com (全角ドットは ASCII 外)

2. ドット (.) の扱い

- RFC 違反となる形式
 - xxx.@example.com (@の直前にドット)
 - .xxx@example.com (先頭にドット)
 - xxx..yyy@example.com (ドットが連続)
- RFC 準拠の形式
 - xxx.yyy@example.com (ドットが区切りとして適切に使用されている)
 - xxx_yyy@example.com (アンダースコアは制限なし)
- 補足
 - ドットは「dot-atom」形式で使用されるが、先頭・末尾・連続使用は NG。
 - 全角ドット (。) は ASCII 文字ではないため、RFC の対象外。

3. 長すぎるメールアドレス

- 制限 (RFC 5321 / RFC 2821 / RFC 3696 Errata)
 - local-part (@の前): 最大 64 文字
 - domain-part (@の後): 最大 255 文字
 - 全体: 最大 254 文字 (@含む)
- 使用例
 -  abcdefghij...abcd@example.com (64 文字)
 -  abcdefghij...abcde@example.com (65 文字)
- 実運用での注意点
 - RFC 準拠であっても、フォームやサービスによっては独自のバリデーションルールがあり、記号や形式によって「無効」と判断されることがあります。特に応募フォームや通知メールの送信に関わる場面では、RFC 準拠だけでなく、実際の運用環境に合わせた確認が重要です。

以上

RFC 準拠でもメールが送れないことがある理由

1. 携帯電話のメールには特別なルールがある

- 「@docomo.ne.jp」や「@ezweb.ne.jp」などの携帯電話のメールアドレスは、パソコンから送ったメールを受け取らないことがあります。これは、迷惑メールを防ぐために、携帯会社が特別なルールを使っているからです。
- 対策として、相手に「パソコンからのメールを受け取れるように設定してもらう」が必要です。

2. メールの中にある「番号」が変だと届かない

- メールには「Message-ID（メッセージID）」という、1通ずつ違う番号がついています。この番号に「:（コロン）」などの変な記号が入っていると、Gmailなどのサービスが「怪しいメールかも」と判断して、届かないことがあります。
- 対策として、この番号は自動でつくものなので、メールを送る仕組み（ソフトやサービス）を見直す必要があります。

3. メールの送り主が信用されていない

- メールが本当にその人から送られたかどうかを確認するために、「SPF」「DKIM」「DMARC」という仕組みがあります。これがきちんと設定されていないと、迷惑メールと間違われて、相手に届かないことがあります。
- 対策として、設定を見直す必要があります。

4. 添付ファイルが大きすぎる

- サイズが大きすぎたり、相手のメールボックスがいっぱいだと、メールが送れないことがあります。
- 対策として、ファイルを小さくするか、クラウド（Google ドライブなど）を使って共有する方法があります。

5. 相手のメールサーバーが一時的に壊れている

- メールを受け取る側の機械（サーバー）が一時的に止まっていたり、迷惑メール対策でブロックされていると、メールが届かないことがあります。
- 対策として、時間をおいてもう一度送ってみると、うまく届くことがあります。

6. メールを送る仕組みによっては、特別なルールがある

- メールフォームやサービスによっては、「/（スラッシュ）」や「_（アンダーバー）」などの記号が入っていると、メールが送れないことがあります。
- 対策としては、送る前に「テスト送信（試しに送ってみる）」をする。

7. メールが送れなかったときの調べ方

- メールが送れなかった時は、「エラーメッセージ（失敗の理由）」という表示が出る場合があります。そこに「どこで止まったのか」「何が問題だったのか」が書かれていることが多いです。

以上